

## 知事と区市町村長との意見交換会(稲城市)

令和2年9月16日(水)

16時00分～16時20分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いいたします。

○知事 高橋市長、どうもこんにちは。

○稲城市長 こんにちは。

○知事 今日はよろしくお願いいたします。

○稲城市長 よろしく申し上げます。

○知事 先日、稲城の美味しい梨をいただいたばかりで、おいしかったです。

今日は長期戦略の策定ということと、それから来年度予算の話、それから喫緊の課題は新型コロナウイルス対策でありますけれども、ウィズコロナの社会をどうやって作っていくのか。それから都政の構造改革を強力に進めていく。それによって新しい日常、サステナブル・リカバリーという、これらのことを柱にして東京のバージョンアップをしていきたいと考えております。

コロナ対策は特にオール東京で取り組まねばならない課題でございますので、今日は直接、このオンラインではございますが、高橋市長から稲城の状況、そしてまた今後について伺わせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○稲城市長 よろしく申し上げます。まずは知事、選挙で再選おめでとうございました。

○知事 ありがとうございます。

○稲城市長 本当に月日の経つのは早いものでございまして、知事に前々回、直接お会いしたのは三多摩・島しょ公立病院の運営協議会の関係で要請をさせていただきました。それが5月25日でしたので、もう随分それから9月になってしまいましたが、大変その後いろいろ御配慮をいただきまして、まずは御礼を申し上げたいと思っております。

一点目の稲城市からの要望をさせていただく事項であります。この間、稲城市立病院として新型コロナウイルス対策に全身全霊で取り組んで参りました。

陽性患者の受け入れ、そしてこちら東京都からの依頼に基づくものでございますが、帰国者接触者外来、これを東京都さんから委託を受けて、稲城市立病院においてPCR検査を実施しております。また、併せて入院患者を受け入れているということがあります。

また、これとは別に稲城市の医師会と共同しまして、PCRセンターについても開設をしている。更には今回、重点病院として手上げをしております。更なる力を尽くしていこうということでもあります。

そこで改めてお願いということではありますが、今回、東京都新型コロナウイルス感染症医療体制緊急整備補助金をいただいているわけではありますが、この交付要綱では期限が9月30日までと書いてあるんですけども、是非ともこの補助制度を年度末まで延長を

お願いしたいなというのが一点。

更にはこの補助金の関係でありますけども、国の補正に基づくものだとは思いますが、最初の各病院からの意向調査が5月10日、更には正式な申請を受け付ける、そのような連絡を受けたのが8月9日でした。

大変決まってから交付手続までが長くかかっておりまして、大変経営的にも厳しい状況でありますので、是非交付決定まで早めていただきたいということと、できれば概算払い等を活用していただいて、年度の途中にこの支払をしていただければ、大変病院の運営上、助かるなということで、それをお願いしたいと思います。

そして三点目ですが、こうした国・都の補助を受けても、なおまだ赤字が埋まっておりません。先頃お渡しをしていました資料にも書いたとおりですが、今回の決算見込で私どもの病院の赤字幅が、年間予測で14億6,000万円ほど赤字になるだろうということが想定されております。

一般会計からの当初の繰入が7億円プラス2回ほど補正をしまして3億円、3億円、合計で既に13億円赤字補填をしているのですが、これでも埋まりきらずに、東京都さんからの内示をいただいているのが今4億4,000万ほどなんですけど、最終的にもまだ4億円以上のお金が足りないということになっております。

是非これまでの補助とはまた別枠で、何らかの損失補填についてお考えいただけないかということが、お願いの三点目でございます。

次に大きな項目二点目は、同じく新型コロナウイルス関係でございますが、いわゆる陽性の判定が出た方々が即病院に入院するわけではなくて、中には在宅療養となっている方、あるいは陽性判定がまだできる前、確定していない段階での濃厚接触者、あるいはPCR検査後に自宅で待機をされている方がいらっしゃいます。

こうした自宅待機をされている方が、新型コロナあるいはまた別の病気で救急搬送依頼、いわゆる消防署に救急依頼が来る場合があります。

こうした場合に、前もって新型コロナ感染疑いという事実がありますので、できれば我々の消防救急隊の方からするとそれを事前に知っていた方が、患者さんの搬送について、こちらも感染するリスクを抑えなければいけませんので、そういった情報をいただきたいなと思っております。

先頃、9月1日分からですが、東京都の保健所の情報、週報の開示を各市町村にさせていただきました。これはこれでありがたいわけではありますが、これとは別に我々消防本部単独でやっておりますので、救急隊に対して、いわゆるその実際の患者さんがどこに在宅療養しているか、住所、氏名、こうした具体的な情報をできれば開示していただけないかなと思っております。

これはいわゆる週報での開示とは別枠ですので、市役所の一般部署の方には漏らさなくていいと思うんですが、できれば東京都保健所の方から直に消防本部、救急隊の方にその住所、氏名情報だけでも結構ですので、御連絡いただけないかなと。これは消防隊、救急隊だけで情報管理しますので、他に漏らすことは一切ないということで、その情報提供に

ついてお願いをするところでもあります。

そして大きな三点目は、これまでも何回かお願いをしているところでもありますけれども、CO2削減、そして水素社会の実現ということで、是非稲城市内に水素ステーションを誘致したい。東京都の水再生センターの広大な敷地がありますので、是非東京都の敷地を有効活用していただいて、水素ステーションの誘致に御協力を賜ればなと思っております。

以上、大項目3点についてお願いしたいというところでございます。よろしく申し上げます。

○行政部長 高橋市長、どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 ただいま3点、詳しい内容についてお話をいただきました。まずコロナ対策でありますけれども、まず医療提供体制の確保というのは極めて重要であります。緊急対策として患者の受け入れ、それから医療従事者の勤務環境を向上させる等、様々な支援策を都として講じてきたところでもあります。

その支援の際は、やはり感染状況を踏まえて行わなければならない。そして予算の確保が求められるわけでありまして、これらのことを踏まえて今回9月の補正予算案の編成をしているところでもあります。今、各医療機関から交付の申請をいただいているところでありまして、迅速に交付手続を行うように努めているところでございます。

それから市立病院の大幅減収ということで、先日もその点についてお話があったかと思えます。多摩地域の公立病院というのは地域の中核病院として重要な役割を果たしていただいています。これからも、またこれまでも運営費の補助を行って参りましたが、複数回に渡って、そのために補正予算の措置をしまして、新型コロナウイルス患者の受け入れをしておられる医療機関に対する支援も実施をして参りました。

病床の確保料、設備の整備費の補助、それから入院患者さんを受け入れた医療機関に対して経営基盤を包括的に支援するための臨時支援金を交付しておりますので、引き続きましてこれらの医療機関の支援を続けて参ります。

それから今年7月4日に行いました、国への要望の中に通常診療を含めて医療提供体制が確実に維持されるように、医療機関の実情を踏まえた支援策の拡充について、国に対しての要望も行ったところでもあります。

それからやはりコロナウイルス関係で、より情報を出してほしいということであったかと思えます。引き続き連絡体制の構築に努めて参ります。また、患者さんの搬送から医療の提供において、个人防护服、PPEですね、これの確保も業務の継続に必須でありますので、これらも都医療機関、消防機関等、感染の拡大防止に必要な個人の防護具等を備蓄していることとしております。個人情報等を守りつつ、備品をどのような形でこれらの情報を共有できるかについては、引き続き検討していきたいと思っております。

それから水素ステーションについての御要望がありました。これについては、具体的に南多摩水再生センターについて、周辺地域での他のステーションの運営状況がどうなって

いるのか、それから燃料電池車、FCV、燃料電池バスもありますけれども、これらの導入状況を踏まえた事業性についても引き続き民間事業者にも確認もしていきたいと考えております。

水素の活用については、私は以前から旗振り役の一人でもございます。これらがそれぞれ実際のニーズと、それから価格と、それらについてセットで考えなければならない部分もあるかと思っておりますけれども、これからのエネルギーをどうやって確保していくのかは、資源のない日本にとっても大きな課題であります。これらについても大きな観点と、そして現場のミクロの観点と、採算がどれぐらいなのか、民間事業ではありますけれども、これらについてこの設計図ということが必要なのではないかなというふうに考えております。

また是非実際に、リアルに都庁の方にもお越しいただけるようなコロナの体制づくりを進めていきたいと思っておりますので、引き続きの御協力をよろしく願いを申し上げます。ありがとうございます。

○**稲城市長** こちらこそありがとうございます。

○**行政部長** 高橋市長、いかがでしょうか。

○**稲城市長** 病院の方については、是非独自の補助を更にお願ひしたいなど。当初の見込みよりは少し患者さんが戻りつつあるんですけども、やはりそれでも現状では5割ぐらいということですので、もうまるっきり不採算で来年を迎えられないのではないかなというような危機感がございますので、引き続き公立病院、公的な医療機関の存続に関わることなので、是非御検討いただきたいなど。

また、稲城市は知事が御存知のとおり、東京で唯一単独で消防本部を持っているという特殊性がございます。通常ベースの情報共有ということではなくて、患者さん自体の情報を知らなければ、お互いに危険だということがあります。

是非とも保健所と私ども消防本部救急隊との間の中だけで結構ですので、そういった患者さん情報についての情報共有に是非取り組んでいただけると隊員自体の安全にも関わることなので、お願ひしたいなど思っております。

水素ステーションについては、知事が元は環境大臣ということもありまして、私も今は全国市長会の環境対策特別委員会の委員長をやっております。是非ともCO2削減を具体的に進める施策を絵に描いた餅にしないで進めていきたいなど。

EVについては若干日本は出遅れたところが否めないわけでありまして、FCVの世界に冠たる先進性、これを進めるためにも、やはり燃料供給がないと車自体に補助制度、私どももやっていますが、車に幾ら補助をしても燃料供給がないとなかなか進んでいかないということございまして、是非ステーションが拡大すれば、それに伴って車も増えてくるのではないかなと思っております。

世界に冠たるFCV、あるいは水素社会の先進国、これを目指して共に是非頑張っていきたいなど思っております。どうぞよろしくお願ひします。

○**行政部長** どうもありがとうございました。それでは知事から最後にお願ひいたします

す。

○知事 ありがとうございます。エネルギー施策等は中長期の大きな課題であります。そしてコロナは目の前の課題であります。しっかりこれからも連携取りながら、長期の戦略の策定と、そして目の前のコロナ対策と、両方メリハリをきかせながら進めていきたいと思っております。

今、国難とも言える危機だとは思いますが、東京の持続的な発展に繋げていきたいと考えておりますので、今日の直接の御意見の拝聴、本当にありがとうございました。またこれからもよろしく願います。ありがとうございました。

○稲城市長 ありがとうございます。

○知事 以上で意見交換を終了させていただきます。本日は御多用のところ、ありがとうございました。